

行政視察報告書

令和5年5月25日

長浜市議会議長 松本 長治 様

長浜市議会議員 矢守 昭男

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 令和5年度 新しい風 会派視察研修
2. 視察期間 令和5年5月15日（月）～5月16日（火）
3. 視察研修場所及び目的
 - ①厚労省 医政局
「病院再編の考え方について」
 - ②総務省 自治行政局
「過疎対策について」

4. 調査内容感想等

・視察の目的

病院再編の考え方について

長浜市も病院再編に向けて検討委員会で議論をされているが長浜市内に存在する医療機関として市民の安心を支えており非常に重要な医療役割分担された機関です。

そこで現在湖北は市立長浜病院・長浜市立湖北病院・長浜赤十字病院・セフィロト病院の4つの病院に支えられています。

今後の長浜市の人口減少・高齢化に伴う医療の質や費用負担、質の高い医療体制整備など大きな問題、課題となります。

高度急性期に及び急性期医療では、市立長浜病院と長浜赤十字病院を中心に連携協力を図り、どの疾患の患者対応をされていますが、令和6年4月の働き方改革が迫る中、今後検討を深めて将来の湖北地域医療圏域の市民が安心して医療を受ける環境整備が迅速な対応が課題となっています。

そこで市立2病院の経営形態について、現在の選択肢の独立行政法人と指定管理者制度のいずれかが選択された場合でも、職員の処遇等への対応や電算システム等の統合、診察機器、病院運営、設備、施設等の大規模改修など病院運営かかる未来の各種調整すべきとされる事項が課題とあります。

・視察の内容

今回の視察内容については病院運営、病院再編の考え方について、2017年3月に全ての都道府県において地域医療構想を策定されて重点支援区域が策定される中、厚生労働省医政局地域医療計画課の医師確保等地域医療対策室より、医療提供体制を取り巻く状況、地域医療構想の取組、公立・公的病院における再編の現状、地域医療構想の実現に向けた支援策などから、まず人口動態では現役世代の減少が続くなか、2020年から75歳(後期高齢者)となり、世代2040年頃に65歳以上人口のピークが到来していくとされています。

その事によりマンパワー不足での医療・福祉職員等の人材確保がますます課題で多様な就労・社会参加、健康長寿の延伸、医療・福祉サービス改革を行い単価時間当たり5%(医師7%)以上の改善計画に向けた取り組みをされています。

特に長浜市においても同じマンパワーの働き方改革へ対応と地域医療の確保の両立

が必要で医療機関の実態調査を踏まえた医療機関の準備状況と地域医療への影響について、施行直前まで実態調査を複数回の実態調査を行う事など事前準備について滋賀県の圏域単価での医療機関と都道府県別の実態調査を参考資料として地域医療総合確保基金による医師確保等の支援を受けて、大学との連携した医師確保等に向けた取り組みを長浜市として取り組める有意義な視察内容での研修となりました。

・ 視察の内容

過疎化対策について

長浜市の人口は令和5年の人口は約11万5,000人で毎年約1,000人の人口の減少が続くと見込まれます。

そうした人口減少のダム機能を求めて総務省地域力創造グループ過疎対策室での最先端の情報システム、情報機関へのヒヤリング情報、重点政策、実態調査をふまえて総務省に視察の対応を受けました。

説明により令和2年国勢調査結果を反映した過疎地域の人口要件での財政力指数の人口減少率、高齢者比率、若年者比率、人口減少率、財政力指数から合併、旧市町村の区域単位で何れも満たしていない地域課題について、過疎地域の持続的発展支援に関する目標、達成状況から特別措置法施行により、分野別に目標を設定したとしても、過疎地域の指定要件が人口減少率であることから、基本目標は、人口に関する目的を記載されて長浜市に合ったPDCAサイクルに基づく効果検証を可能にして取り組む環境整備が必要であると感じました。

また長浜市においても、過疎地域が指定されている地域において、比過疎地域とな

ることを目指せる、地域活性化等の取組を積極的に推進するように、きめ細かな丁寧なサポート体制を長浜市での進められる有意義な視察研修となりました。